

令和4年度第2回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和4年6月14日（火）18:00～19:35

【場 所】 浜益支所2F 庁議室

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 【協議事項①】「高齢者に優しいまちづくり」の検討結果について
- 3) 資料1 除雪サービスの除雪範囲について
- 4) 資料2 ふれあい雪かき運動
- 5) 資料3 愛らぶ活動事業（栗山町）
- 6) 資料4 新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した防災訓練の実施事例
- 7) 資料5 令和3年度 川下自治会からの要望（抜粋）

【出席者】9名（13名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美	○	委員	水崎 理	○
副会長	佐藤 晃一	○	委員	阿部 ゆかり		委員	徳田 和之	○
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸	○	委員	柿岡 奈々絵	○
委員	久慈 貞子		委員	徳地 克実	○			
委員	鳴海 翔		委員	赤間 香子	○			

（支 所） 高橋支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）

伊藤市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）

川村集落支援員

（本 庁） 企画経済部企画課 宇野課長、芳賀主査（オンライン参加）

（事務局） 佐々木地域振興課長、佐藤（慎）主査、柿崎主査

（NPO法人エゾロック） 草野竹史、水谷あゆみ、小林夏帆

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 高齢者に優しいまちづくりに関する意見交換
- 4 その他
- 5 次回の開催日程について
- 6 閉 会

1 開 会

【事務局】

定刻ですので、会議を始めます。ただ今から、令和4年度第2回浜益区地域協議会を開会いたします。はじめに、会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

一時、逆さ黄金山が見られました。代かき後の水田も田植えが無事終わり、一面、緑の風景に変わり、山々の木々も新緑から深い緑に変わってきています。来週21日には、一年の中で、昼の時間が最も長くなる夏至を迎えます。皆様には、外でのお仕事や趣味の時間と大いに活用されていることと思います。しかし、今年は例年にない肌寒い日が続いておりまして、本格的な夏の訪れはもう少し先になるのではと思っております。一日も早く、暑い夏が訪れ、観光客や海水浴客等で賑わう季節となり、交流人口や関係人口の増大につながるよう期待しているところであります。

さて、今日の議題は前回に引き続きまして、「高齢者に優しいまちづくり」についての意見交換ですが、前回、グループに分かれて意見交換した内容について、事務局の方でまとめていただいておりますので、関係資料等も交えながら具現化に向け、さらに意見交換していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、浜益区内で活動しておりますNPO法人エゾロックの皆さんも会議にご出席いただいております。のちほど、「浜益版 集落の教科書」完成についての報告があると伺っておりますので楽しみにしたいと思います。以上、簡単ですが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日の会議は、出席委員が13名中9名出席です。委員数の過半数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

3 協議事項

【渡邊会長】

「高齢者に優しいまちづくり」に関する意見交換に入る前に、前回の地域協で、グループに分かれて協議した内容等について、事務局でまとめておりますので、関係する資料等を交えて事務局から説明をお願いします。

【事務局】

前回の地域協議会では、「高齢者に優しいまちづくり」をメインテーマとしまして、雪対策、教育・伝承、危険対策についてマンダラチャートという手法を用いたグループ討議を行いました。

それぞれのグループで作成していただいたチャートを基にして、お手元の資料のとおり地域力、プラスアルファの地域力、持続可能にするための条件など、課題解決へ向けた3段階のステップとして整理をいたしました。

お手元の資料は、縦軸に個別テーマの雪対策、教育・伝承、危険対策。横軸には、課題の概要、そして、地域力、プラスアルファの地域力、持続可能にするために、諸条件などを整理して一覧にしています。

まず、雪対策について。課題としては、雪捨て場の確保、排雪が追い付かない、排雪業者がいたらいいなど、福祉除雪サービスの担い手が不足、除雪範囲を含めた今後の在り方、などが挙げられています。

地域が持っている地域力としましては、大雪に負けず、こまめな雪かきを行う強い心を持っていること。近所が助け合い、支えあっているのが浜益区であるということ。子どもたちの中に育まれた地域を助けようという心、ボランティア精神もあるという意見もあります。

プラスアルファの地域力としては、ひとり暮らし高齢者世帯等除雪サービス事業（福祉除雪サービス）が展開されています。お手元の【資料1】をご覧ください。これが、福祉除雪サービスですが、70歳以上の高齢者世帯で除雪困難な方もしくは、重度身体障がい者世帯が対象となっています。除雪する基準は、朝までにおおむね10センチ以上の降雪があったとき、玄関先から公道までの、幅1メートルと、積雪、落雪により窓ガラスが割れる恐れがある場合、窓枠が出る程度の範囲を1シーズン2回までを限度としています。しかし、長く関わるうちに、善意で除雪する範囲が大きくなったり、要望が強くなったりと、求められるものが大きくなり、従事者の負担感が大きくなっているのが事実のようです。

地域力とプラスアルファの地域力を持続可能なものとするために、有料でも除雪サービス事業者が

ほしいという意見や、除雪機や重機があれば効率が上がるとの意見がありましたが、それらを動かすには、そもそもマンパワーが必要なのではないかと。マンパワー確保としては、仕事としてお金をもらえるようなシステム構築、仕組みを作ることで、冬期間の収入確保につながるのではないかとという考えもあります。

また、石狩市では「ふれあい雪かき運動」というものもあります。【資料2】をご覧ください。町内会など地域ぐるみで協力し合いながら、高齢者世帯の除雪を行う場合、除雪を要する世帯を特定していることを前提に助成金が交付されるという制度です。助成額は組織維持費としてワンシーズン2万円、活動費として、ワンシーズン1世帯当たり5千円が助成されます。また、他市町村では、栗山町社会福祉協議会が実施主体となって「愛らぶ活動事業」が展開されています。【資料3】をご覧ください。除雪を中心とした、日常生活の支援、見守り、声掛けが対象となった制度です。高齢者が多い浜益区の中で、こういう取り組みも必要になるのではないかと、情報提供させていただきます。

次に、教育・伝承についてです。まず、課題の概要としては、地域と学校の関わりをどう維持していくか。浜益昔ばなしの更新をどう行かなど。

地域力といたしましては、地域の文化、芸術に長けた方、お年寄りなど関わりを持つことで、浜益独自の学びにつながる人材が豊富なこと。豊富な自然環境の中で学べること。癒しがあること。自然を守る意識づけができていないことなどが挙げられました。

また、プラスアルファの地域力としては、浜益には一次産業をリードする方々、地域おこし協力隊、集落支援員など、地元では当たり前だったことが宝であるということに気付ける人材もいます。学校が地域に開かれた学校を目指していることによって、地元愛にあふれた浜益の教育が成り立っていると思います。

これらを持続可能としていくためには、教職員数、生徒数の確保を含めたマンパワーの確保。文化を伝えゆく手段の確保。学校活動を円滑に行える交通手段の確保が必要であり、教育の質の確保や、移住、定住を含めた取り組みに必要な予算、スポンサーの確保などが挙げられています。

最後に、危険対策です。課題の概要としては、倒壊や火災、獣の侵入等の危険性がある危険空き家対策。高齢者の避難対策やコロナに対応した防災、避難訓練が挙げられています。

地域力については、周りや家族へ困ったことがあったら通報できる関係性や、デマンド交通やバスの運行によって、脱自家用車による交通安全。注意喚起のポスター等の作成を児童・生徒に依頼し、より注意を促す。また目に留まる注意喚起ができるのではないかとという意見がございました。

プラスアルファの地域力としては、地域の見守りの目を活かした危険空き家の注意喚起と情報共有及び情報収集。自治会のつながりを活用した小グループでの避難訓練が実現可能ではないかとの意見もありました。コロナ対策に対応する避難訓練として、栃木県とか、岩手県、長崎県の事例を紹介したいと思います。【資料4】をご覧ください。従来型の対策に加えて、オンラインでの情報収集・伝達により、円滑な災害対策を実施する試みや、コロナ対策としてマスクの着用、検温、3密の回避、体調不良者への対応を含めた避難所運営の訓練を実施し、安全な避難と、感染対策を両立することが課題となっております。この中でも、ITやICTの活用といった意見は、効率的な防災や避難活動に有効だと考えています。

持続可能な取り組みとするために、空き家バンクの整備や、防災無線が聞き取りづらい地域への対応。高齢者も歩きやすい道路整備。昨今、国道等で目撃情報が多い鹿や熊といった害獣対策として、定置網のような形式で捕獲をしてみてもどうかといった意見もありました。

また、【資料5】をご覧ください。危険対策の関連として昨年の自治会要望におきまして、川下自治会から、身体や災害地域の状況によって直接避難所に行けない場合に備え、防災備品や非常用食料等が入った防災リュックを全戸に配布してはどうだろうという意見も出されているところです。

このように、それぞれの課題を分析しますと、浜益の持っている地域力といったポテンシャルは高く、協力する姿が当たり前の姿勢が見られる素晴らしい環境であるということがわかりましたが、その一方で、中心的役割を担う中心世代が不足しているという課題も浮き彫りになったと考えております。

本日は、このグループ討議結果を基に追加や補足、関連する意見などを本日お集まりの委員の皆さんで、さらに掘り下げた議論をしていただければと考えております。よろしくお願いいたします。

【渡邊会長】

事務局から、雪対策、教育・伝承、危険対策について説明がございました。皆さんからご意見やご質問等聞いていきたいと思っております。

それでは、雪対策から、聞いていきたいと思います。

事務局の説明の内容、それに基づいた委員独自の意見、ご質問等ございましたら出していただきたいと思います。また、課題の概要について他にもこういった課題があるんじゃないか。プラスアルファの地域力だとか、具現化するため、持続可能とするための方策等、それぞれ考えていることがありましたら、出していただきたいと思います。

【木村委員】

雪対策に関してですが、私の住む地区のご老人に頼まれて福祉除雪サービスを申請したのですが、70歳以上でも元気なお年寄りであれば、対象にならないと言われて何人か断られたそうです。でも、実際に腰痛い、足が痛いとかで除雪できない方がいらっしやって、地域の方に頼んだって事実もあり、みんながみんな福祉除雪サービスを受けられるわけではないですよね。申請したからには、支所の都合もあると思うのですが、申請に来られた場合は、なんとか要望を聞いて欲しいというのが率直な意見ですね。

【渡邊会長】

確かに、需要の部分と、供給するマンパワー。だんだん浜益自体も高齢化していますので、全てに対応しきれない部分もあるかと思っています。

【木村委員】

また、除雪を請け負う方も、地区で10件請け負っているとか、時間的なこともあって人材不足を解消できない部分もありますが、なんとかできる方向があればいいなと思っていました。

【渡邊会長】

そういった方法について、アイデアがあれば良いのですが。

【木村委員】

60歳とか手の空いてる年代っていうのが、担い手になるのかなって思っていますが、生活サイクルに合わないこともありますし、地域でやっていかなければならないのかというの感じますね。

【渡邊会長】

水崎校長、雪対策についてご意見ありませんか。

【水崎委員】

ちょっと観点が違うかもしれませんが、本校、小学校、中学校は昨年、あれだけの雪にも関わらず、臨時休校は1日だけでした。本当に浜益の除雪体制と、バスっていうのはありがたいというプラスの感想です。これが、普段雪が少ない千歳、恵庭、北広島、札幌も凄いことになっていましたが、みんな同情して、大丈夫かという声をかけてくれたのですが、浜益は案外強いなって感謝しています。学校に関しては手厚いなと感じています。

【渡邊会長】

これからの次代を担う子どもたちには手厚くしないと、基本的な部分だと思っています。そういった部分に高齢者の方々も少し目を向けていただけたらと思います。

【佐藤副会長】

やっぱり、困るのは雪を捨てる場所です。僕も近所とかから頼まれてタイヤショベルで除雪しているんですが、企業から依頼を受けた分はお金をいただいているのですが、ボランティアで行っている部分が多いです。手で除雪しているわけではないので楽なのですが、雪を捨てるところがなくて。

【事務局】

お金を払ってでも頼めるところがあるところと、無いところがあって、佐藤副会長はボランティアでやっている部分と請け負ってやっていることもある。地域ごとに有償でもやり、個人的にもやってますっていう方がいれば、ちょっとは違うのかなと思います。

【渡邊会長】

本当に仕事として。冬の仕事として成り立つような仕組みができれば一番いいのですが、それに伴って、人の確保だとか、個人事業者自体はいるかと思いますが、だれが音頭を取って、率先してやっていくのが課題ですね。

【徳地委員】

やってみなきゃどうにもならないからね。浜益に来たいっていう人の希望と合えば、なんぼでもやろうかなとは思いますが、手作業でやるつもりはないですね。どこまでできるかわからないけど。

【渡邊会長】

除雪の機械購入の補助金とか、除雪機の貸出しがあった気がしますね。

【事務局】

花川の北6条町内会とかで、除雪機の共同利用みたいのをやっていて、共同利用する機械購入への補助金等の仕組みがあった気がします。ただ、どのくらいの使用頻度があるか、機械1台、2台だけでの話かもしれません。それとも、1台、2台でもあれば、それをみんなで使って、手の空いてる人が協力してやれるっていう体制が作られればいいかもしれないですね。

【徳地委員】

除雪機動かすくらいできる人は結構多いですよ。

【佐藤副会長】

市で頼まれて除雪している方も個所有の除雪機を軽トラで運んで除雪していますよ。

【渡邊会長】

他に雪対策ありませんか。無ければ、次の教育と伝承のほうに移っていきたいと思います。

【渡邊委員】

浜益昔ばなしを集めたいと思っています。これをどうやるかは、まだ全然進められてはいないですけど。

ちょっと、話が変わるのですが、歴史的な古民家が浜益に点在していて、その古民家の持ち主がそろそろ家を手放さなければならぬお年頃になってきたという話を、知り合いの方に聞きまして、壊すにはもったいない古民家も、守っていかなくちゃいけないなと思っていました。

【渡邊会長】

確かに、価値のある建物というのはありますからね。

【渡邊委員】

その、築90年とか100年近くなっている中で、その家はどのようにして今まで残ってきたのか、そこのお家の歴史はどこから始まっているのかとか、昔ばなしに繋がっていくので、今のうちにそういったお話も聞いておかないといけないという話をしていました。

【事務局】

今の渡邊委員の意見で、古民家が結構、手放さなければならなくなってきたという話が出てきているのだと思いますが、そういった情報は、渡邊委員がまとめていますか？

【渡邊委員】

あの家、空きそうだよっていう話を聞いて、結局は今のところ、まだ、大丈夫だったんですが、何年か前から、古民家は大事だと思っていて、まだ、大丈夫かなと思っていたら、意外と時期が早かったという印象です。

【事務局】

柿岡委員は集落支援員という立場で、空き家情報を調べたりというののもやってみようかなと話していたと思うのですが、柿岡委員の情報で、渡邊委員の発言のように、基本的には個人の財産なので、それをどうにかするなら誰かが買い上げて活用するとなってしまうんですが、こういう歴史があるというような、築90年、100年ある家は建物の魅力というか、付加価値みたいなものに繋がるのではないかなと思ったら、情報を収集しておくとか、まとめておくっていうのは、大事ではないかっていうのを思いついたんですが、例えば、具体的に柿岡委員がこのような家でこういうのがありましたというのがありますか。

【柿岡委員】

渡邊委員が話した家は情報共有していて、お互いに行けるとときに内見したいという話はしています。その他だと、空き家問題に関して言えば、空き家がかなり出てきています。ただ、受け手がくる時に、すぐ使えるかっていうと、色々お金がかかったりとかするものだったり、場所的に問題があったりというのがあります。その中で、古民家系の話をすると、古いから良いついていうものでもないと思いますね。ただ、新しければいいってものでもないし、古い家なら古い家なりの歴史的価値を、まだ世に出ていない歴史的価値をこちら側が発掘して、どのように見せていくかというところで、ただの古い空き家が、歴史的価値を持った文化遺産的なものとして見せることもできるのではないかなと思っています。

あと、個人的なお話にはなりますが、空き家欲しいです。ただ、どういう風に活用していくかがまだ定まってない状態で、わたしも無い袖は振れないので、5軒も6軒も所持するのは現実問題としてできないところもあります。家の情報を集めつつ、その家を利活用してくれる人も探しつつという同時進行で行っていかなければならないので、なにかいい情報をいただけたら嬉しいです。よろしくお願いします。

【渡邊会長】

空き家の情報等ありましたら地域振興課へご一報いただければと思います。よろしくお願いします。

【渡邊会長】

それでは、徳田委員、教育・伝承等について、ご意見ありましたらお願いします。

【徳田委員】

浜益小学校は小中連携をやらせていただいて、浜益ならではの教育をやりたいと思っています。今コロナで、活動を抑えるような状況になっていますが、自然豊かな体験活動をこれからも大切にしていけることが、教育・伝承の大切な一つかなと思っています。

ただ、我々は転勤族ですから、いつまでも浜益に居るということではないですが、浜益に居た人間がしっかりと地域に根差して、出ていくことになったときに次に来る人間に伝えていくということ、これは浜益の教育の伝統として、非常に大切なことだなと思っていますので、そこを重視しながら、教育活動をしていく必要があると考えております。

【渡邊会長】

徳田委員のおっしゃるとおり、教員自体もつながりというのも含めて次の方にバトンタッチするよう、より良い教育を目指して、頑張っていただきたいと思います。

【川村支援員】

教育のところです。前回このグループで討議に参加しました。2つ申し上げます。地域おこし協力隊や集落支援員のところで、浜益の当たり前が実は宝だというのは私も強く感じています。先日、小中合同の運動会がありました。雨で流れて月曜日開催になりましたが、晴天の中、見事なものでした。水抜き作業、それから、早朝から保護者が集まっての準備。ものすごいパワーでした。しかし、おそらく浜益の人たちは、これが当たり前だと、そういう顔をなさっていました。でも違う地域から来た人間にしてみたら、こんな場所はないですよ。当然それが、応援の姿にも表れていて、大きな地域の親御さんは、残念ながら自分の子どもか、特に知っている子どもくらいしか目がいかないんですよ。ところが、浜益の応援団は保護者だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんも近所の方もいらしてる。その中で見守られて育っているっていうのは、もの凄く浜益のパワーだと認識しました。学校の先生方も浜益の教育に関する宝だと思っています。先生方も地域を向いて一緒に子どもを育てていることを実感している。前回、水崎委員がこのグループの中で、こういう言葉をおっしゃっていました。学校が地域にできることはなんでもある。こういうことが言える、管理職っていうのは、僕は貴重だと思います。そう言い切れる人はそうはいないと思います。大事にして、これから作り上げていきたいなと思っています。

二つ目です。移住・定住という部分がありますが、何とかこの地域に子育て世帯を呼べないものかということも考えます。私自身、江別市の教育委員会で4年間、不登校にかかわる支援、相談にあたってきました。中には、街の中で子どもも大人も精神的にストレスで疲れてしまって、その結果、学校という集団に足が向かない子供たち、つまり、悩んでいる親御さんたちもいます。それを浜益に繋げられないかということも考えています。以前、令和2年にこの協議会におじゃました時に、山村留学の話題について情報提供させていただきました。システムを作って、呼ぶっていうことは、現実的ではないのかなっていうふうに思います。ただ、そういう姿勢を別の形ででも、ウエルカムだよ。子育て世代が来てくれたら、住む場所も、仕事も融通したいよというアピールを何かできれば、一人でも二人でもファンが増えていけば、結果的に子どもを連れて浜益に住むということではないにしても、実現できる可能性はあるのではないかと感じています。

【渡邊会長】

移住、定住するためのシステムが、型にはまったことではなく、移住者の生活に差支えが無いようにと色々な方たちが言っていますが、そういった方たちを取り込むためにアピールが必要ですよ。

そういうことも考えていくことが必要だと思います。

その他、教育・伝承の部分で、もっと補足したいような、知恵や意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

【柿岡委員】

以前、区民カレンダーで古い写真を使っていて、今まで発行された分を全部アーカイブして保管してあります。昔の資料として、凄く貴重なものだと思うのですが、それだけでは全然足りない部分があります。まだ世に出てない昔の写真、貴重な明治の初めのころの写真も、誰かの蔵とか探したら出てくるんじゃないかなとか。あといろいろ見て、調べて、欲しいなって思っていたのが、祭り関係に関しての動画や、昔浜益にたくさんお店があって賑やかだった、あの頃の街並みだったり、生きた映像っていうのをまだ見たことがないので、もし、誰か持っているっていう話がありましたら、情報

をいただけたら、後世に残せる良い資料になるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

【渡邊会長】

それでは、危険対策に移っていききたいと思います。

意見や質問等、何かありましたらお願いします。

【赤間委員】

地域的なことかもしれませんが、防災無線についてです。もう何年も前から聞きづらいです。自分がもう歳を取って、家の中にいてなにか鳴った気がするなって窓を開けたら、ちょっと聞こえるかなくらいです。家の中にいたら全然内容がわからないです。だから、現在の防災無線はどんなのかなって思っています。新篠津とかでは、個人宅に、防災のシステムがあって、例えばどこで、誰が亡くなったとか、こういうことがありましたっていうのが常時入ってきてうるさいねって言っている人がいるのも聞いたことがありますけど、そのようなシステムにできないかと思っていました。

【渡邊会長】

個別受信システムですか。以前、自治会連合会から市に要望したことがありまして、市の危機管理担当から、スマホや携帯を通しての情報発信等、色々な方法があるので、いろいろ焦って決めてしまわないほうがいいと思ってもらえればと、市から回答は来ております。

【事務局】

個別受信器ですけど、支所の我々も会議に参加して、市の防災担当と色々意見交換を継続して行っていますが、今の防災無線を新篠津のような個別受信器の設備にするには、送受信施設等の設備投資に巨額の投資が発生します。一方で、携帯電話の電波や、いろいろな通信手段もどんどん進化してきていて、通信インフラや送受信設備を自前で整備するより、携帯会社等がアンテナを立てて、それを利用するようにしたほうが、より便利な世の中になりつつあるところで、なかなかその先へ進まないのが現状です。赤間委員がおっしゃるように、お年寄りの方は、スマホどころか携帯も持っていない人がいる中で、どういう手を差し伸べられるか。我々のようにスマホを持っている人は、それを活用して、色々な情報入手するのが、徐々に普通になって行くんでしょうけど、その、二面性でどうしていかってというのが、考えが進まない状況なのかなと思います。現状でも結構、災害情報など、自動的に危険ですよっていう情報が、誰でも受け取れる状況になっていますが、これを持たない人たちをどう助けて、フォローするかというのが課題ですよ。

【渡邊会長】

以前の地域協議会でも、携帯電話の保有率とか調べたことありましたよね。

【事務局】

お試して調べたもので65歳以上のお年寄り5～60人のアンケートですけれども、大体6割くらいの方が携帯電話を持っていて、その半分ぐらい、だから全体の3割くらいの方はスマホを持っています。かなりざっくりとした統計ですけど6割から7割くらいの方が、スマホを持っていないので、その人たちにどうやって情報を伝えるか、危険情報を伝えるか。やはり従来型の声をかけていただくとか、テレビとかラジオがありますけれども、ちょっと工夫しながらなのかなと思いますね。

やはり現在の防災無線は聞こえないですね。

【木村委員】

風の強い日ほとんど聞こえないですね。

【事務局】

最近も熊が出ましたって言う放送を流しましたが、流したらまず問い合わせがあるかもしれないから、当直の人とこういう放送を流して、こういう情報だということを共有して、今、何か流れたけど何だろうっていう問い合わせに対応できるような準備をしながらやっているのが実情です。

【木村委員】

何か流れたってわかる高齢の人がいるとは限らないです。耳の遠い人とかもいらっしやいますし、なかなか防災無線を耳にするのも難しくなっている方もいるので、個別受信装置はやっぱり必要だと思います。私たちは大丈夫でも、10年後、20年後って変わっていけば、スマホも持っていて通信手段っていうのはある。でも、自分の親の時代、今80歳、90歳の方は携帯も持っていないし、電話の音も聞き辛くなってきている。そういう人達はどうすればいいのかなと感じます。電話をしてもつながらないとかそういう状態なのであれば、ちょっと考えていただきたいなと。

【事務局】

大きな課題ですよ。

【木村委員】

雨が降っても聞こえないし、風向きによっても聞こえない。そういう音に関して、なかなか難しい

歳、年配の方がいっぱいいるので。

【佐藤副会長】

うちも大体9割聞えないです。外に出ても聞こえない。

【事務局】

何かが鳴ってるなって思って窓を開けても、雨がザーザー降っていると聞こえないですよ。

【渡邊会長】

私には、隣近所から、サイレンが鳴ったり、何か言ってるんだけどわからないと言って、電話が来ることも度々あります。そういった時には、わたしも全然聞こえないです。私はスマホに情報が来ますから、それを見てこういう内容ですって。実は私も聞こえなかったけれどもというように、隣近所に教えてあげるような対応をしています。まあ、委員の皆さんも、今すぐっていうわけには、なかなか難しいということもありますので、現状は色々協力し合いながら、情報を地域みんなで共有しながら、防災に備えていってほしいと思いますね。

それでは、折角川下自治会からの要望が出てきていますので、川下自治会の副会長でもある佐藤副会長、補足も含めて話していただければと思います。

【佐藤副会長】

自治会の会議でこのような話が出ました。全戸に防災リュックを配布して、様々な理由で避難所に行けない場合の応急的対応と、区民の防災意識の高揚を目的に配布してもらえれば、みんな助かるのかなと。それで、要望した経緯です。なんとか検討していただければと思います。

【渡邊会長】

事務局から何かありますか。

【事務局】

資料5ですけれども、昨年、要望いただいた時期と、令和4年度予算の要望締め切りのタイミングがうまく合わず、1年間は継続で検討となったのですが、今後実施主体となる団体の検討も含めてなのですが、地域振興基金は基本的に初年度3/4補助になります。残り1/4の負担は、実施団体等で持つ必要が出てきますし、具体的に1万円相当の防災グッズっていう提案ですけれども、その中に、更新が必要なもの、例えば食料とか、それを更新するときに、誰がどのように更新するかっていう仕組みまで考えていかないと駄目かなとも考えました。また、一応自治会として、全戸配布となると、川下自治会からの提案ですが、自治会連合会等、全体の意見をお聞きしておきたいなど、何点が考えていて、このような回答をしました。

例えば、自治会連合会が実施主体となってやろうと。一定の自己負担も何とか捻出しようとなった場合、それに対して地域自治区振興基金を充てようとなります。充てるかどうかについては、この地域協議会で決定していくことになると思いますが、来年の予算の締め切りまではまだ数か月ありますので、この場や色々な機会で議論していただいても結構かなと思います。

予算の締め切りは、大体9月から10月くらいには、地域自治区振興基金を活用する施策として、この場で確認をして、予算要求する流れにしています。

【渡邊会長】

浜益区の全戸にということであれば、基金を使う事業になって、事業主体は自治会連合会が事業主体になるべきだろうし、自治会連合会からの要望ということになりますが、そのような形にするには、自治会連合会の総会なり、臨時会議の中で揉まないといけないと思います。そこですぐ決められるかというのは、いったん各自治会に持ち帰って、自分たちの自治会ではどうするのか。

確かに、個人的に防災リュックを持っている方もいるだろうし、個人負担があるならいらんっていう人も出てくるかもしれない。浜益全体として取り組まなければ効果のないもので、いる人だけに配布するということにはならないと思います。財政的に裕福な自治会は、その組織の会計の中でまとめて渡しますよとなりますし、小さい自治会はできるかもしれませんが100戸、120戸とかになれば、仮に1万円とすれば、自己負担の合計が25万とか30万とかになり、そのお金を自治会の中で捻出できるのか。それとも、個人から集められるのか。希望者だけということでは果たして良いのかって事になりますね。

【事務局】

直接避難施設へ行けない場合ということですが、個人的には、少し寂しいなと感じまして、話の流れで行くと共助に優れた浜益地域で、孤立したときに防災グッズで何とか頑張れみたいなことを言う人は、多分いないだろうと思うんです。そう考えると、もっと本当に防災訓練や避難訓練をやったときに、これは持っていくんだっていう物として、最低限の物を区民の皆さんの家庭に置いてもらうような趣旨だったら理解できるんですが、それを持っていれば、あとは各自で何とか頑張らましよう

では、それは寂しすぎるなと個人的には思いました。

【渡邊会長】

あくまでも、避難した時のグッズだとか、使う物、そういった防災備品を備えたリュック、それを背負って逃げるんだっていうための防災グッズですから、自治会の事務局にお聞きしますが、自治会連合会で揉む機会っていうのは、今のところ10月定例会になりますね。

【開発市民福祉課長併浜益生涯学習課長】

10月です。本当は4月の時に揉んでいればっていいんですが、これについては、各自治会長さんからは特段、意見は上がっていないのが実態ですね。もしかしたら、各自治会で、こういった備品や消耗品を備えているところもあるかもしれません。

【渡邊会長】

まあ、全額基金事業だとなると、それは事業としては厳しいでしょ。

【事務局】

いろいろ相談しなければならない部分はありますが、これについて、自治会連合会の役員会等を行うことは可能でしょうか。

【開発市民福祉課長併浜益生涯学習課長】

会長が必要と認めれば、開催は可能かと思います。

【渡邊会長】

各自治会へおろして、良い意見をまとめてもらうしかないと思います。また文書で、自治会として取り組むべきかどうかをとりまとめるとか、全員集まって話し合うのが一番いいんじゃないかと思いますが。

【事務局】

本日、地域協議会でこの話題になっているので、協議会委員の皆さんのコメントや、意見とかをいただければ、それを踏まえて自治会連合会の方々と話をしたらいいかなと思うのですが。

【渡邊会長】

どうですか。防災リュックに関して。

【赤間委員】

これは、個人、個人にとってことですよね。各家庭にということですよ。それには、各家庭の大事なもののや、飲料水とか入れたらそのリュックっていうのはどのくらいの大きさになりますか。

【事務局】

ネットで検索してみても、1万円換算だと凄く大きな印象です。

【赤間委員】

それで、高齢者が何か災害時とか、背負って移動できますか。

【渡邊会長】

背負っては歩けないかもしれないですね。

【赤間委員】

防災の避難用のリュックということは、結構お年寄りには色々なもの入れてしまうと思います。それよりも、その自治体の中で、防災用の食糧や、そういう物を自治会等で備蓄しておいて、もしなにかあったら、そういう所に避難というようにした方が良くないでしょうか。

そして、このリュックの中に防災用食料がありますが、これは今年用意しておいて、これが何年か後には食料の賞味期限があるので、それは1年に1回ずつ買い変える必要が発生しますよね。

【渡邊会長】

ただ単に買いっぱなしではいけないという話だよ。

【赤間委員】

難しいですよ。個人的なリュックっていうのも。それより、自分たちでなにかあったときにはそれを持って行くように、各自で考えるっていうのはどうですかね。

【事務局】

役割分担というか、避難所に通常あるものや、なにかが起きたら避難所になくても色々本庁から持ってくるものもありますし、それを全部個人に分けて分担して持つくらいだったら、それは、避難所にあります、これは各家庭で、いざっていうときに持って集まりましょうとか、工夫や検討が必要ですね。全部を個人に分けたら、大きいリュックサックをひとつ、一人暮らしのお年寄りのところへ配布したところで持って歩けない事態となりますね。

【赤間委員】

お年寄りの多い浜益区ですから避難する場所って決まっています。避難場所等に関心を持ってもら

って、自治会の避難所の係の人だとかが食料等を提供したほうがいいと思います。

【渡邊会長】

持ち寄る物とすれば、リュックを二つ用意して、避難するときに必要な懐中電灯とかカンパンとかペットボトル2本くらいにしたいですね。まずそれを持って逃げようって私も準備しています。

それから、数年前の三陸沖地震。被災した人の半数くらいの方がそういう備えをしているそうです。

浜益の自治会の話を聞くと、個別に防災リュックを買って用意している人も結構いると聞きますし、全戸一斉に負担を求めるような形で導入できるのかなって言ったら、全部タダで配布してくれるんだったらやりますよって話になるかもしれないですが、私も難しい気がします。

【高橋支所長】

書いてあるように、直接避難施設に行けない場合用の防災リュックって、川下自治会で調べて、そういう提案じゃないんですかね。

【赤間委員】

避難所に行けない人を自治会とか支所の方が、移動させてあげる方向のほうがいいですよ。そういう人を移動させてあげることを重点的にしたほうがいい気がします。

【渡邊会長】

自治会連合会の役員会等を開催して相談しませんか。

【開発市民福祉課長併浜益生涯学習課長】

招集の在り方も含めて、会長と調整いたします。

【渡邊会長】

そのような形で進めていきたいと思います。今後、自治会連合会で方向性が決まりましたら地域協議会へ提案する形をとるか、違う形をとるか、あとは様子を見るのかで進めていきたいと思います。

本日の協議事項はこれで終了してよろしいですか。

また、「高齢者に優しいまちづくり」について継続して話し合っていきたいと思いますので、今日いただいたご意見等について、事務局で整理して、次回の地域協議会で報告していただけるよう、用意をお願いします。また、関連する情報などありましたら、その時に併せて情報提供をお願いします。

4 その他

【渡邊会長】

それでは次に、その他です。この場を借りて、連絡事項や話題提供等ございましたら、出していきたいと思います。

まずは、NPO法人エゾロックさんから「浜益版 集落の教科書」の完成について、説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【NPO 法人エゾロック 小林夏帆】

私はNPO法人エゾロックの浜益ベースチームに所属していて、普段は江別にある酪農学園大学に在学をしています小林夏帆と申します。よろしくお願いします。

初めに、エゾロックの活動について説明します。エゾロックは石狩市にて行われるライジングサンロックフェスティバルという音楽フェスのゴミ問題を解決するため、2001年に設立されました。札幌市中央区に事務所があり、北海道内の課題について6つのプロジェクトチームを作って、学生、社会人などで構成され、アイデアとパワーを注いで課題解決に取り組んでいる団体です。

私はその中のプロジェクトのひとつ、浜益ベースチームに所属しています。浜益区浜益にある一軒家を借りて、宿泊・滞在しながら浜益と関係人口の架け橋を作る取り組みを行っています。浜益に通って、浜益で暮らす方と一緒に活動をする中でつながりを作り、浜益の魅力を体感してもらい、また来たくなる、そんな浜益のファンを増やしていく活動を中心に行っています。歴史としては、2009年頃から浜益に関わりはじめ、子どもの自然体験、イチイのスノーシューツアー、浜益ベース一軒家の改修でしたり、浜益ご縁米プロジェクトを経て、今この一軒家には、地域おこし協力隊である井上優太が住んでいます。今現在で、コアスタッフは10名ほどおりまして、千歳科学技術大学、北海道大学、酪農学園大学に通っている学生で構成されています。

今まで浜益で、浜益ベースチームが取り組んできたこととして、ご縁米プロジェクトという、浜益のななつぼしを若者に配るプロジェクトや、木村果樹園を筆頭に果樹園のお手伝いをさせていただいたり、おためし地域おこし協力隊活動への参加や、イチイツアー、子どもの体験活動の受け入れなどに関わってきました。去年は、浜益版集落の教科書の製作に特に力を入れておりまして、完成報告と、どういう経緯で完成に至ったのかを伝えたいと思っています。

浜益版集落の教科書、第一版についてご説明させていただきます。

まず、集落の教科書とは何かということですが、京都府南丹市にあるNPO法人テダスが、作成・支援しているもので、地域の良いことも、そうでないことも、ちゃんと伝えたいというコンセプトで書かれています。移住のための地域別ガイドということで、本来は移住者向けの教科書ですが、私たちは浜益の関係人口を増やすために、関係人口向けにアレンジした浜益版の集落の教科書を製作しました。それは、いざというときに浜益の手助けをできるくらい、浜益のファンになってもらうことを目標としました。地元住民ではなく、外部の都市側の人間や関係人口側の人間が集落の教科書を作ることで、関係人口予備軍である関心者層の興味に、より着目した冊子の製作が可能となると考えました。

従来の集落の教科書との違い、テダスの製作する集落の教科書は移住者向けで更新前提。地域と関わるために必要なことを何でも記載するというので、住んでいたら必要な習慣、生活とかゴミ出しルールのような細かいことまでしっかりまとめたものになっています。

一方、浜益ベースチームが製作した集落の教科書は、関係人口向けで、更新前提でとしました。観光パンフレットよりも一歩踏み込んだ、住民しか知らないようなマニアックな内容を掲載するというところを中心に行いました。読んでいただいて、浜益に継続的に関わりたいくなるようなワクワクする情報をまとめています。例として、おすすめスポット、地図に載っていない地名、昔と今の違い、印象的なエピソードなどを載せています。

主に去年からの活動として2021年3月におためし地域おこし協力隊という形でワークショップを始めたのがきっかけで、浜益の方とエゾロックで、集落の教科書という取り組みを浜益でもやってみたいねということが決まって製作を開始しました。移住者に対してどういったことを伝えたいのか、移住してくる人はどんなことを知りたいのかなどを、3月と5月にワークショップを開催して検討して、そこから調査シートを作成し、現地調査、資料収集などを行いました。ベースチームメンバーはもちろんですが、それ以外のエゾロック内のボランティアで、初めて浜益に来るような人も交えて、延べ15日間、50名が活動をしました。そこからインタビューに協力していただいた方も、この中に何名かいっぱいいますが、8月から12月にかけてインタビューをしていきました。作成した調査シートを活用して延べ10日、29名にインタビューをしました。そのインタビューをした際の記事がWeb上に上がっています。

2021年12月から2022年3月までの活動としては12月の地域協議会で経過報告をさせていただきました。この時点では、まだインタビューを行った後ですので、このような形にはなっていない状態だったのですが、中間報告会や座談会をオンラインで行いました。

NPO法人テダスの田畑さんという、集落の教科書を初めて作った方にも報告して、この時点での課題をいただいたり、関係人口向けにオンラインで座談会を開いて、客観的な意見を関係人口側に見ていただいたりということをしました。

そこから、ペルソナのワークショップというのを地域おこし協力隊、おためし地域おこし協力隊の中で、オンラインで行いました。ペルソナというのは、ターゲットという言葉よりも、もっと絞られた、顔が見えるくらいの存在のことで、それを決めることで、私たちは本当にどういう人に読んでほしいのかということ深く考える会議をしました。

2022年4月から6月現在の活動ですが、4月から主に集落の教科書の形にしていくために活動してきました。みんなオンラインで会議をしながら繋いで、それぞれ製作していくという形だったので、どのように進んでいるかということが見えなかったり、作業をそれぞれに振った方がいいものの進んでいるかどうかが見えにくかったので、すり合わせをするのが大変だったのですが、結果として大学生3名、高校生1名、会社員1名、協力隊1名という形で、この教科書が完成しました。そこから、修正、編集などを地域振興課の方に見ていただいて、訂正などを入れていただき、今の形になっています。

直近ですが、5月28日から29日の活動で、完成報告会を実施しますよという予告のチラシを、インタビューに協力していただいた方を中心にお配りして、6月12日に完成報告会をカフェスト内で行いました。前半は、エゾロック浜益ベースチームの活動報告。浜益版集落の教科書第1版の完成報告会を行い、後半にエゾロック浜益ベースチームの活動について検討するためのワークショップを行いました。前日からの活動やチラシ配りを経て18名の浜益区民の方に参加していただきました。

集落の教科書を製作する活動は、一軒家で、みんなでパソコンを打ちながら検討したり、インタビューを歳の離れた人や色々な職業の方にするという機会がなかなかないので、どういうことを聞いたらいいかということとか、どういう話し方をしたら失礼が無いかということを考えながら活動を行ってきました。また、集落の教科書に載せられるようないい写真が撮れるように、様々な名所みたい

なところをまわって写真を撮ったりとか、地図を描いたり、地図にない地名を確認するため、現地に足を運んだりということをしました。作った6人の思いは、編集後記のところでも詳しく載っていますので、是非見ていただければと思います。大学生が中心なのですが67ページから載っておりまして、社会人をやりながらの教科書製作だったり、高校生の視点での感想が載っていますので、ぜひこちらに目を通していただければと思います。

最後になりますが今後の展望についてです。これからの集落の教科書の活用方法について検討を重ねていきたいと思っています。作って終わりでは無いと思って作っていましたので、これを活用して、フットパス等の事業に活かせるのではないかと、ベースチームの活動の中でこれを読みながら、初めてボランティアに参加する人に、予めある程度の知識を入れた状態で浜益に来てもらうことで、気軽にボランティアに行くことができます。あとは、浜益区内外の色々な施設に置いてもらう取り組みを実施しようと思っています。まだまだ認知度が低いですし、色々な人に読んでいただいてこそこの浜益ファン創出になると思いますので、いろんなところに置かせていただけるように取り組んでいきたいと思っています。

こちらは、第1版と銘打っているので更新前提で作っています。更新を重ねて、情報をもっとディープなものにしていったり、もっといい写真を入れていったりして、第2版、第3版を作れるようにしていきたいと考えております。

最後に、関係人口に注目した初の集落の教科書となりますので、他地域のモデルになればいいなと思っていて、様々な活動を考えているという状況です。以上で浜益版集落の教科書の取り組みについての報告を終わらせていただきます。

【NPO 法人エゾロック 草野竹史】

いつもお世話になっております。まず、今回の製作にあたって、皆さんも私たちも非常にドキドキしながらこの取り組みを見守って、浜益の皆さんに支えていただいて、ようやく形になったということになります。

集落の教科書というのは、全国的に注目をされている取り組みです。集落の教科書の取り組みを始めた、NPO法人テダスの田畑さんという方が、つい最近全国版の書籍を発売しまして、一番最後のあとがきに、一つ後悔していることがありますと、この浜益の取り組みを、この中に掲載するのが間に合わなかったことを悔やんでいまして、この取り組みは本当に面白いという言葉をしていただいています。

浜益版集落の教科書は、今までにないつくりをしていますので、私たちにも問い合わせが来ていたり、どうやって作っているのですかっていう連絡を頂いている状況で、一石を投じている部分があるのではないかと考えております。

【NPO 法人エゾロック 小林夏帆】

この取り組みをやってみた感想ですが、私がこれに関わりたくなって思ったのは、一年前のおためし地域おこし協力隊でのワークショップを経て、これに関わっていきたくて思ったのですが、その中でまず、浜益の方々が集落の教科書をちょっと見たいよね、あったらおもしろいよねっていうふうに凄い盛り上がっていたのがとても印象的で、なかなかそういう地域振興とか地域おこしをやっている地域は色々なところにあると一応知ってはいたんですけども、これだけ活気があって、若者の意見を取り入れたいとかって言うっていただける地域は、実際に本当にインタビューに協力していただいたりとかで、一緒に動いてくれるような地域って、なかなかないなって思ったので、まずそこで、浜益でやる意味が自分の中で見い出せたんじゃないかと思っています。教科書を作る作業とか、本当にインタビューを色々な方にすること自体が初めてだったので、やっている最中は本当にこういう形になるのかなっていう不安だったりとか、結構浜益の方々は最初、ちょっとシャイなんですけど、話して質問責めをしていくと、どんどんお話してくれて、当初は1時間の予定が、一緒にご飯とかバーベキューをしながらみたいな形になったりとか、ある意味濃いもののできたんじゃないかなと思っています。

私としては、自分で感じた印象のまま載せるというところだったり、浜益の方が伝えたいっていう、インタビュー上での想いをそのまま載せたいというのがあって、書き文字よりも、話し文字のまま書いているところもありますので、ちょっと読みにくいところも多々あるんじゃないかと思うんですけど、本当に浜益の人、一人一人の雰囲気みたいなのが味わえるものになったんじゃないかと思っています。本当に皆さんありがとうございました。

【渡邊会長】

はい、70数ページにわたる浜益版集落の教科書ですが、大変なものを作っていただいてありがとうございます。また、初版ですから、第2版以降、更に追加していただきたいと思っていますので、是非、色々浜益を深く掘り下げた内容について掲載していただき、補足していただきたいと

思っています。よろしくお願いします。NPO法人エゾロックの皆さんでした。ありがとうございました。

それでは、そのほかに報告等ございましたらお願いします。

【水崎委員】

運動会の報告です。本当にお世話になりました。先月の下旬に、土曜日に計画していましたが、明らかに雨予報だったので延期していました。ただ、土曜日の夜の降りも物凄くて、日曜の朝もグラウンドに水が溜まって無理でした。その時ですね、あとから聞いた話では、夜間に水路を掘ってくださったり、そして、穴を掘ってポンプで排水してくださったり、そして翌日はちょっとPTAに声をかけたら、本当に多くの方、生徒を含めて50名以上の方が、スポンジで吸ってくれたり、重機を投入してくださったり、それで月曜日開催できたものだと思います。

それが無ければ、月曜日の開催も危うくて、その日、札幌の小学校では、月曜日に水が引かなくて、運動会を火曜日以降に延期せざるを得なかったってことを聞きました。本当に、ありがたい限りで、非常に嬉しかったです。児童・生徒39名ですが、それ以上の人間が浜益の子どもたちの環境を運動会のために整えてくださったっていうのは、ありがたい限りですし、その分、学校もいろいろ地域に対して出向いたり、何かしなければいけないっていう思いを強くしました。地域に開かれた学校って言っている思いがありますので、こちら、困ったことがあったら、ちょっとバンザイして、助けてっていう声をあげて、ウィンウィンな関係で行けたらいいなと思っています。おかげさまで、運動会、盛会に終わりましたし、7月13日からは修学旅行に仙台、平泉、函館に行かせてもらいます。そういう折にも、地域振興課にはお世話になって、浜益のPRをしていきたいと考えています。お力添えいただきますので、今後も目指しているところは同じなので、情報を共有しながら、できることはやらせていただきたいと思いますし、お世話になるところは協力を請うこともあると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

【徳田委員】

過去コロナの影響で2～3年ほどできていなかったんですが、浜益小学校は伝統的に自主公開研というのを毎年やらせていただいているという経緯がございます。石狩市さん、石狩市教育委員会さんからもご後援いただいています。地域おこしじゃないですけども、7月に行うというのがミソでありまして、浜益に来ていただいた方に浜益の良さを色々見ていただくという思いもあります。ただ、本年度は特別にこの裏の写真を見ていただいて、ちょっと思い切ったことをやってみました。石狩管内でもこういう開催要項は初の試みということで、私も教師生命をかけて、ほとんど私が作ったんですけども、教育長にも見ていただいて許可を得ました。浜益で研くということで、ご存じのとおり、生ける伝説、ミスター浜益の吉弘教諭にモデルになってもらってできました。この、いっぺかだれやはまますという有名な言葉ですけども、たくさんとにかく集まって、浜益を見てください、浜益の子どもを見てください、浜益の教育を知ってくださいということで、吉弘自らがモデルになって、お笑いだけではなく意味があって、浜益から発信するぞと、行くぞって意味を込めてこういう写真を撮ったということです。今年度は新たな学びの創造ということで中学校と共有しています。子どもたちは、本当に素直で純朴です。優しく、まじめでコツコツ努力する。本当に大切に、大切に宝として、育ててきた子どもたちです。

ただ、中学校を卒業して大海原へ出て、高校を出て一人でどんなことでも能動的に戦っていかなければなりません。自分たちで切り拓いていく。強い自分を作っていく、自分から発信していく、受け身から自分からどんどん動くという、そういう子どもを育てていこうということで、今年度新たな学び、自分たちで学びを創造するということをやっております。多くの先生方が集まってもらって、学びあい、浜益の教育の質を上げていきたいと考え、このような形でやっております。

この開催要項も、全道各地に配布しました。見たよ、凄いねって。この先生なんていう先生？吉弘先生だねってことでいろいろ反響があって、さぞかし現時点で受け付けた参加人数が多数来ているかなと思って、蓋を開けたらまだ今3人ということで。また、3人の内訳が、一人が前小玉校長先生、もう一人が川村さんということで、一般の人が1人ということです。

これからどんどん呼んで、見ていただきたいと思います。一般の方もぜひご覧になって、子どもたちの様子を見ていただきたいと思いますので、浜益で研くということで、二次案内もまた作成中です。もう少しレベルを上げたもので、インパクトのあるもので発信していきたいと思っております。よろしくお願いします。残念ながら中学校さんが、修学旅行ということで見ていただけないんですけども、地域の方もご覧になっていただけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

【渡邊会長】

ありがとうございます。興味のある方は、是非、応募していただきたいと思います。それでは、最

後に徳地委員の方からお願いします。

【徳地委員】

浜ワークですが、6月6日に第1号と契約をしまして、7日から働いてもらっています。31歳の男性の方で船にも酔わなかったので、いい子だねという話がちらほらと。とりあえず、柿岡委員のカキゴヤに住んでもらっていますので、どこかで会いましたら優しくしてやってください。

よろしくお願いいたします。

【渡邊会長】

事務局の方から何かありますか。

【事務局】

4月から5月にかけてのイベント開催結果について報告させていただきます。まず、水産物等普及プロジェクト、浜益ふるさと市場の開催結果です。5月1日から22日までの毎週日曜日。計4回開催しました。前半中々天候に恵まれず、気温が低い中だったので、お客さんの出足が鈍っていましたが、後半2回は天候に恵まれまして、延べ3,000人以上の来場者がありました。

続きまして、海浜美化キャンペーンin浜益です。NPO法人海浜美化を進める会主催のもと、5月15日に開催されまして、1トンを超えるゴミや漂着物を拾い集め、はまますピリカビーチを綺麗にさせていただきました。

はまますいっぺかだれやフットパス春の巻の開催結果です。5月22日の日曜日に実施しました。8名の参加があり、きらりから荘内藩ハママシケ陣屋跡では、陣屋研究会の方々からの案内を受け、その後、田植え前の田園風景の中を歩いて楽しまれておりました。次回は6月19日開催予定で、今準備をしています。

【渡邊会長】

その他に各委員の方から何かありますか。

なければ、次回開催について事務局からお願いします。

5 次回の開催日程について

【事務局】

次回の協議会ですが、今日の協議事項の内容を事務局の中で整理しまして、おおむね7月の中旬を目途に日程の調整をしたいと思います。日程調整は改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【渡邊会長】

次回の第3回目の会議は7月の中旬ということで、時間は午後6時からということで開催したいと思います。

それでは、以上をもちまして、第2回目の地域協議会を終了します。お疲れ様でした。

6 閉 会

令和4年8月16日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡邊隆之